

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001336		
法人名	医療法人 純正会		
事業所名	グループホームサンハウス荒子 2階		
所在地	愛知県名古屋市中川区高畑2丁目274番地		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2371001336-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ひとりひとりの尊厳を大切に、思いやりのある介護をおこなっている。料理、おやつは、手創りで心のこもった、おいしいものを提供している。家事等できることは、職員と利用者が一緒におこない家庭的な雰囲気の中、楽しく生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは理念である「尊厳を第一に考えその人の立場に立った思いやりのある介護」を基にケアに取り組んでいる。理念をユニットに掲示し、勉強会を通じ、理念の大切さを職員へ伝えている。職員一人ひとりが理念の理解に努め、ケアの実戦に移している。また、管理者はケアの実践を通じ、職員へ身体拘束、接遇等に対する教育を行い、職員の質の向上を目指している。ホームは、母体が医療機関であるため、利用者に対する医療面での支援が充実しており、協力医による往診も行われ、緊急時にも協力医療機関への受診も可能であり、家族も安心できる医療体制が築かれている。ホームは通所デイと併設されており、利用者の情報を共有することで、馴染みの関係を継続する取り組みを行っており、デイ利用者とホーム利用者との交流がスムーズに行われ、共に利用者を支える体制が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「尊厳を第一に考え、その人の立場に立った思いやりのある介護」の運営理念は職員間で共有し、日々のケアに役立てている。	理念は現管理者が就任時に作成し、各ユニット入口に掲示し職員に周知している。管理者は勉強会を通じ理念に込められ思いを職員に伝え、利用者の尊厳に配慮したケアに努めるよう職員へ意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者と職員は、日常的に散歩に出かけ、近所の人と気軽に挨拶を交わしている。また、入居者の友人も気軽に面会に来ている。祭り等の行事にも参加している。	ホームは町内会に加入しており、回覧板、近隣の住人の情報により地域の情報を得、お祭り、豆まき等のイベントに参加し、地域との交流を図っている。中学生の職場体験を受け入れており、地域との交流も深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の体験学習を受け入れている。認知症についての相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	いきいき支援センター、町内会役員、家族、利用者を会議のメンバーとして近況報告や話し合いをできるように取り組んでいる。また、そこでの意見交換をもとにサービス向上に努めている。	会議では、利用者の状況、活動報告を行っている他に、毎回議題に沿って進行されて、参加者と意見交換が行われており、ホームの運営に生かされている。また、町内会の役員の参加もあり、地域の情報収集の場ともなっている。	運営推進会議の家族の参加が、開催日の影響もあり固定されている。多数の家族の参加を促して取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の開催する研修会、講習会へ管理者、職員が参加している。区の生活保護課と生活保護の入居者について情報を交換している。	ホームでは、生活保護受給者を受け入れており、区の担当者との情報交換やホームへの訪問の機会もある。また、市や地域包括支援センターの研修会や講習会等の際には、職員が参加するよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修により職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族からの要望もあり、ユニット入口に急な階段がある為ユニット入口は施錠している。	ホームは原則、身体拘束を行わない方針である。管理者は身体拘束の理解を深めるため、職員に対し実践を踏まえながら、身体拘束に対する考えを伝え、また指導を行い身体拘束がないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修等により、高齢者虐待防止法を理解し職員同士注意しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1名の利用者が権利擁護を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明を十分行い、その後も不安や疑問点があれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に家族会を実地し、家族の意見を吸い上げている。	家族との交流を深めるため、家族会を開催し、食事を取りながら意見交換が行われ、要望、意見の把握に努めている。また、毎月職員が利用者の状況を記載した便りを作成し、利用者の様子を細かく伝える取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に意見や提案を聞き良いことは、反映させている。	管理者は、毎月開催予定のユニット会議、職員との意見交換を通じ、意見、要望の把握に努めている。業務、運営に活かせる事を思索し、反映させている。ホームには法人事務長がホーム施設長であり、内容により事務長が対応することもある。	現状、毎月ユニット会議が開催されていないため、毎月会議が開催することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境にするように労働条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修費の補助を行い外部の研修に希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修で知り合った同業者と交流を持ち互いに訪問や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人とは常に、家族とは随時、不満や要望などの聞き取りを行うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居説明を行う段階で、本人及び家族が何を求めているのか時間をかけて把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に、生活環境、状態などを見極め、必要な情報の提供や相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、洗濯、調理などできることをしてもらい共に暮らしているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、日ごろの暮らしぶりなどを報告し利用者の相談をしたり、また家族からの相談にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や以前の施設の職員など気軽に会いに来てもらえるように努めている。	ホームには、併設されているデイサービスからの入居の利用者もあり、デイサービスの利用者との交流の機会もつくられている。また、法事に行けない利用者に対して、親族がホームに訪問して一緒に過ごしたこともあり、関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の個性や性格の良い面を引出しながら、入居者同士のコミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去者に対して面会に行くなどフォローに努め、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人と話したり、行動や気持ちから思いをくみ取り介護計画につなげチームで本人の希望にあった暮らしができるように支援している。	ホームでは、職員の日常の支援を通じ、利用者の思いや意向の把握に努めており、ホーム日誌、申し送りノートにて、利用者の情報の共有に取り組んでいる。職員が利用者の状態を細かく把握して欲しいとの思いから担当者制は採用していない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に必要な情報を把握し職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を注意深く把握するように、一日の様子は午前、午後、夕～夜間に分け、個人ファイルに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族に話を聞いたりフロア全体で検討をし現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は、基本6か月に1回の見直しを行っている。利用者の状況をモニタリングシートに記入することで、ケアプランの達成状況を把握し、利用者の変化に応じ、現状に即したケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルや日誌、申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買い物、外食など必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	特にしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医の往診が月2回、訪問ステーションからは、毎週看護師が訪れている。その他必要な医療機関には、家族対応となっている。	協力医による訪問診療がユニット毎に2週に1度行われている他、休日、夜間も対応が可能な体制が取られており、緊急時の対応も可能である。また、入居以前の病院受診も可能であり、家族による受診の際には、必要な情報提供が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問ステーションの看護師に観てもらう他、必要時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院が緊急の入院などに対応してくれている。入院した際、定期的に見舞いに行き、本人、家族の相談に応じ主治医の先生からも経過を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期が予想される場合、ご家族と密に連絡をとり、話し合い事業所で、できる範囲で主治医、訪問看護ステーションと連携を図れるようにしている。	ホームでは、原則、看取り支援を行っていない。状態の変化に応じ、家族と随時面談を重ね意向を確認し、ホームで対応が可能な限り、医師、看護師と連携を行いながら、利用者、家族の意向に沿ったケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	管理者が救命救急講習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回いろいろな場面を想定して避難訓練、防災訓練を実地している。	年2回、夜間も想定した訓練を行っており、訓練の際にはホーム内を暗くし、より災害時に近い状況で行われている。通報訓練も合わせて行われている。ホーム内には備蓄品として水、食料、オムツ等が用意されている。	地域の住民はホームに理解を示しており、協力体制も可能である。避難訓練に参加して頂き、地域の方と連携した訓練を期待した。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常的にプライバシーの配慮に心がけている。個人記録の個人名やミーティング時、他利用者の前での会話には、イニシャルにしている。	管理者は、利用者への尊厳に配慮するよう、日頃から職員へ伝えており、言葉遣い、利用者への呼び名をイニシャルで呼ぶなどし、利用者への羞恥心に配慮したケアが行われている。また、管理者は実践を通じ接遇等を職員へ指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が一方的に決めることがないように、本人の意向を十分に把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務中心ではなく、散歩やレクなど本人に希望をとり一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人が着たいものを選んでもらっている。月1回、訪問利用を利用し、本人の意向に沿ったスタイルにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者が、できることは参加してもらっている。食事は生活の中で楽しく楽みな事なので、おいしいものを思いを込めて作っている。食事は、職員も利用者も一緒に同じ物を同席で行っている。	ホームでは、1週間分のメニューを利用者の要望や季節の野菜を取り入れながら作成し、担当者が調理をしている。利用者も野菜のカット、配膳等に参加している他、刻み食等、利用者の状況に応じた食事形態の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	血液検査の結果をもとに主治医と相談を行い食事の量を決めている。また、食事量や水分量は、チェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、義歯は毎晩消毒を行い保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声掛けやトイレ誘導を行っている。ズボンの上げ下げなど自分でできることは、してもらうように支援している。	職員は、排泄チェック表にて利用者の排泄パターンを把握しながら、トイレでの排泄に取り組んでいる。日中と夜間とで、利用者の状況に応じたパッド類を使い分けている。また、便秘の利用者に対しては散歩等の運動を行い改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、飲水、運動、繊維質の多い食事を心がけている。排泄チェック表で一人ひとりを把握し早めの対処をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は、一日おき入浴時間も決まっている。その中で希望やタイミングを合わせている。	ホームでは、2日に1回の入浴となっており、入浴を拒否する利用者に対しては、職員の交代や入浴時間を変更したりし、入浴して頂けるよう対応している。また、入浴の香りを楽しんで頂けるように入浴剤を数種類用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も疲れていたら居室にて自由に休んでもいただき、夜も2時間おきに空調の調整をしたり気持ちよく寝れるように配慮している。朝は、無理やり起きてもらわず、遅れても朝食がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の情報を個人ファイルに入れ職員全員で共有している。症状に変化が見られた場合は医師に情報を伝え早めの対処をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事の好きな方は、家事を手伝ってもらい趣味のある方は個人的に自由に活動するなど個人に合わせて支援している。気分転換に時間は関係なく外に散歩に出掛ける時もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の体調を見ながら、本人のその日の気分や希望に応じて散歩に出かけている。買い物や外食も家族の方とできるように支援している。	利用者は、日頃から近隣を散歩し、季節に合わせた外出として、花見、初詣に出かけている。また、利用者の希望に応じ、少人数でスーパー等への買い物に出かける等、個別に応じた外出支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、個人では所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その都度、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられる飾りつけをしている。	利用者に季節を感じて頂きたいとの思いから、リビング内に季節感を取り入れた作品を利用者と職員で作成して掲示している。また、リビングは南向きで採光に優れており、利用者は明るい雰囲気の中で生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席は気の合った者同士で決まっているが、日常は、自分の好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族と相談し、使い慣れたものを持ってきてもらっている。また、暮らしていく中で必要な物が出てきた場合には、家族の方と本人で買い物に出掛けれるように支援している。	居室内は、利用者の馴染みの家具が持ち込まれ、家族との写真やホームで作成した作品等、利用者の思いの品が掲示され、個性に配慮された居室作りに取り組んでいる。利用者が快適に生活ができるよう温度、湿度にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の扉に本人の部屋であることがわかるような飾り付けをしている。		